



第2層の取り組み状況の報告と、 今後の展開について

健康づくり課
地域包括担当

第2層協議体 元気づくり・地域づくりプロジェクト

【設置数】

第2層協議体は、44の小学校区のうち

43校区で設置（令和8年4月時点）

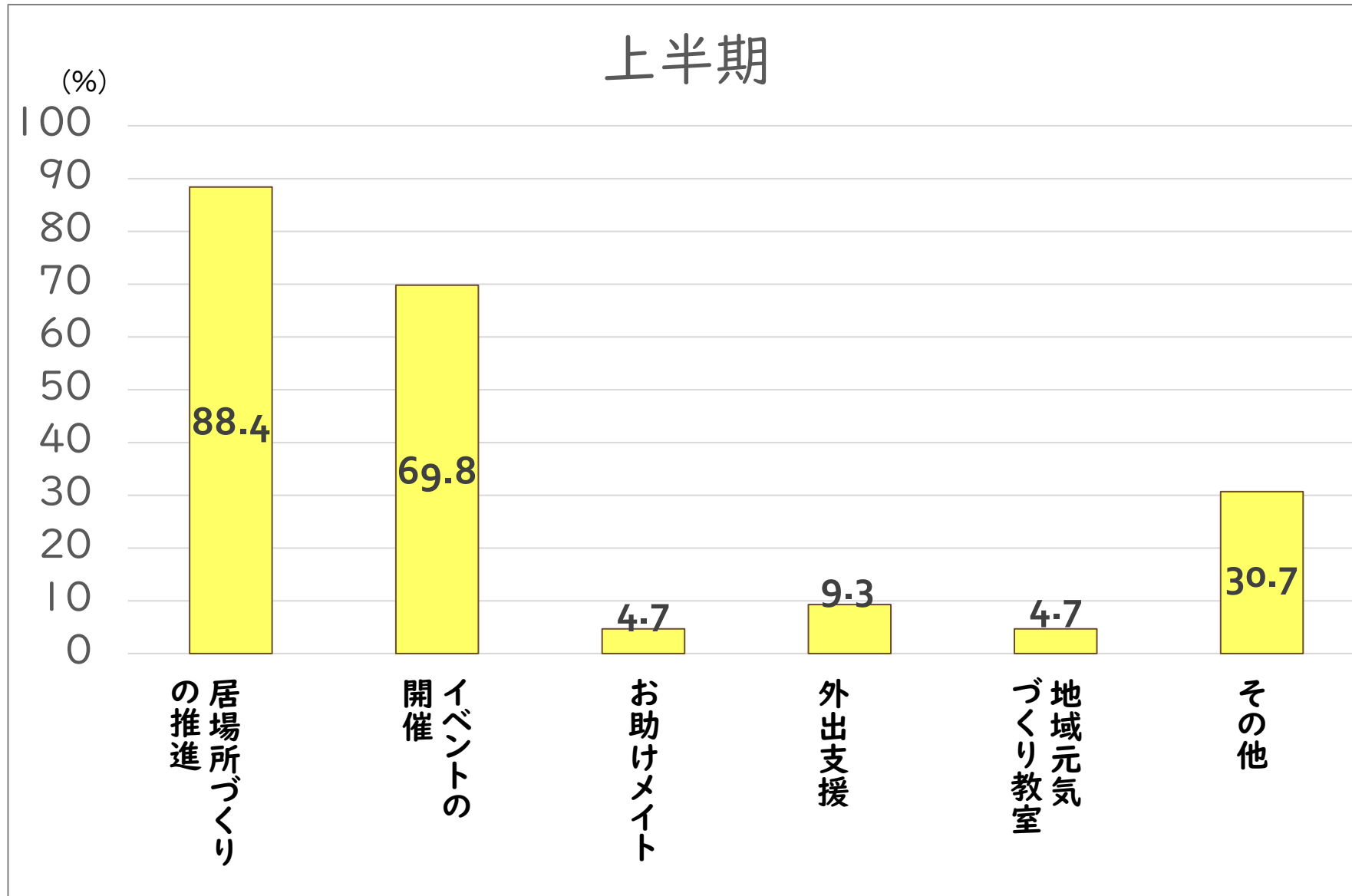
【昨年度の主な取り組み】

令和7年12月1日 交流会開催

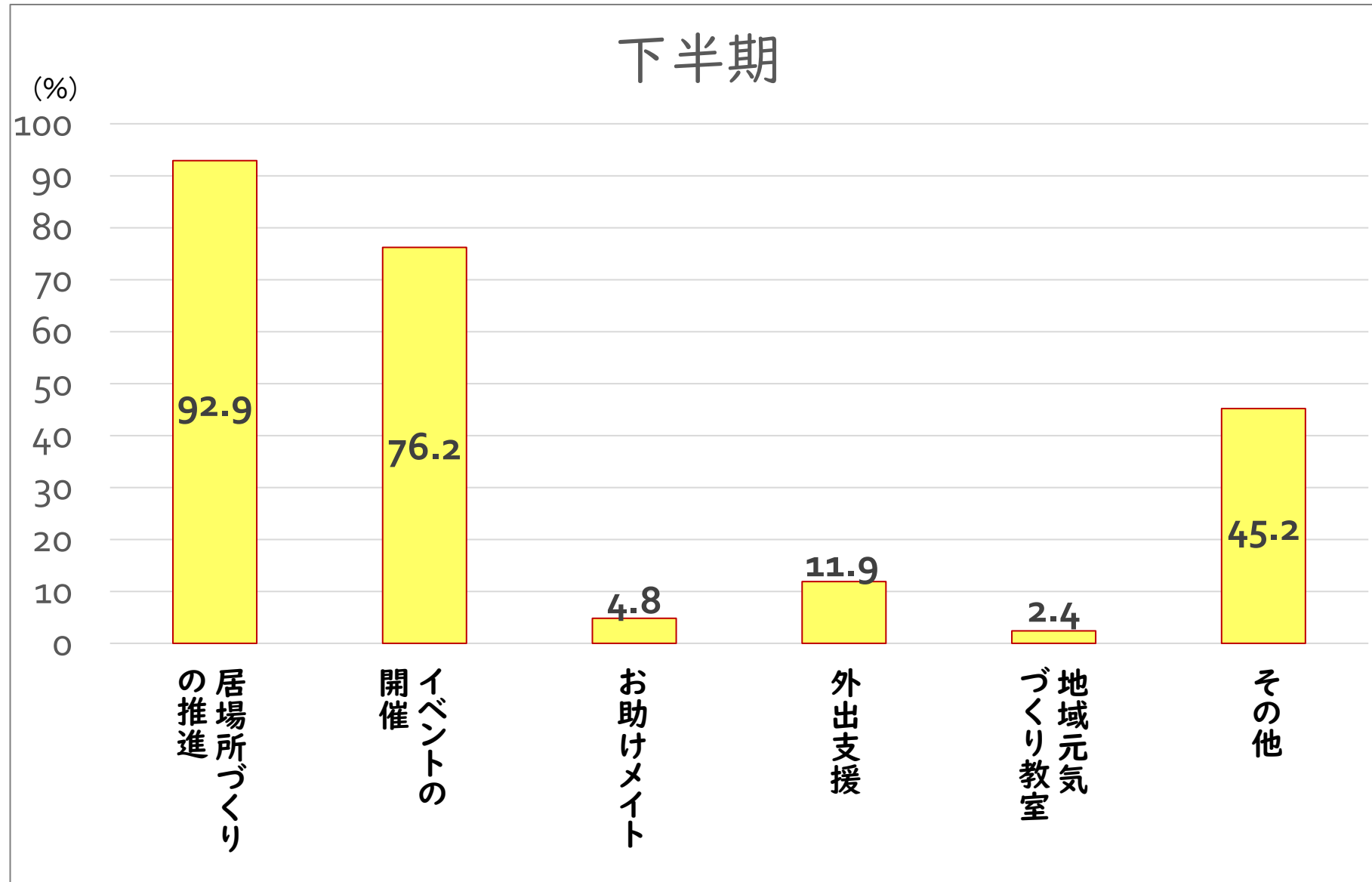
【それぞれの地域での取組】

- ・ 居場所づくりの推進：サロンやカフェ、ウォーキングなど定期開催
- ・ イベントの開催 ：クリスマス会や新年の集いなど季節に応じた交流目的などで開催
- ・ お助けメイト ：認知症や独居で不安を抱える方の話し相手、環境整備、家事援助
- ・ 外出支援 ：イスプロジェクト、地域住民が行う移送支援
- ・ 地域元気づくり教室

活動内容取り組みまとめ



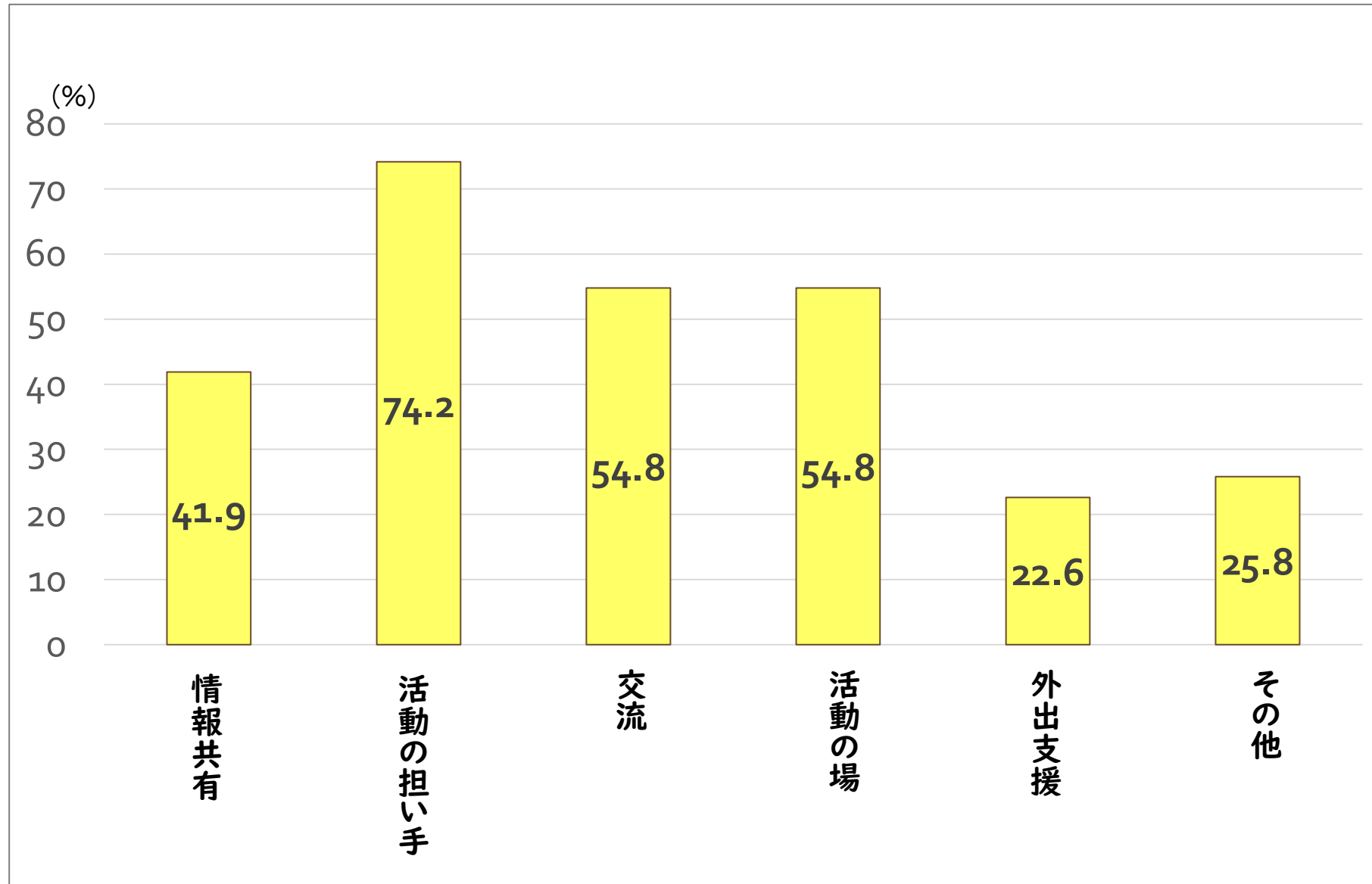
活動内容取り組みまとめ



○その他

- ・ 独居高齢者の安否確認、高齢者の見守り活動、消費者被害拡大防止活動
- ・ 福祉だよりの発行、福祉マップ作成
- ・ フードバンク、配食サービス、子供食堂
- ・ 熱中症対策、献血、防災訓練
- ・ 福祉委員会の支援

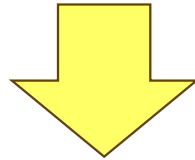
地域から出た課題のまとめ



地域課題からみる枚方市の課題

第2層事務局・コーディネーターからの報告書から...

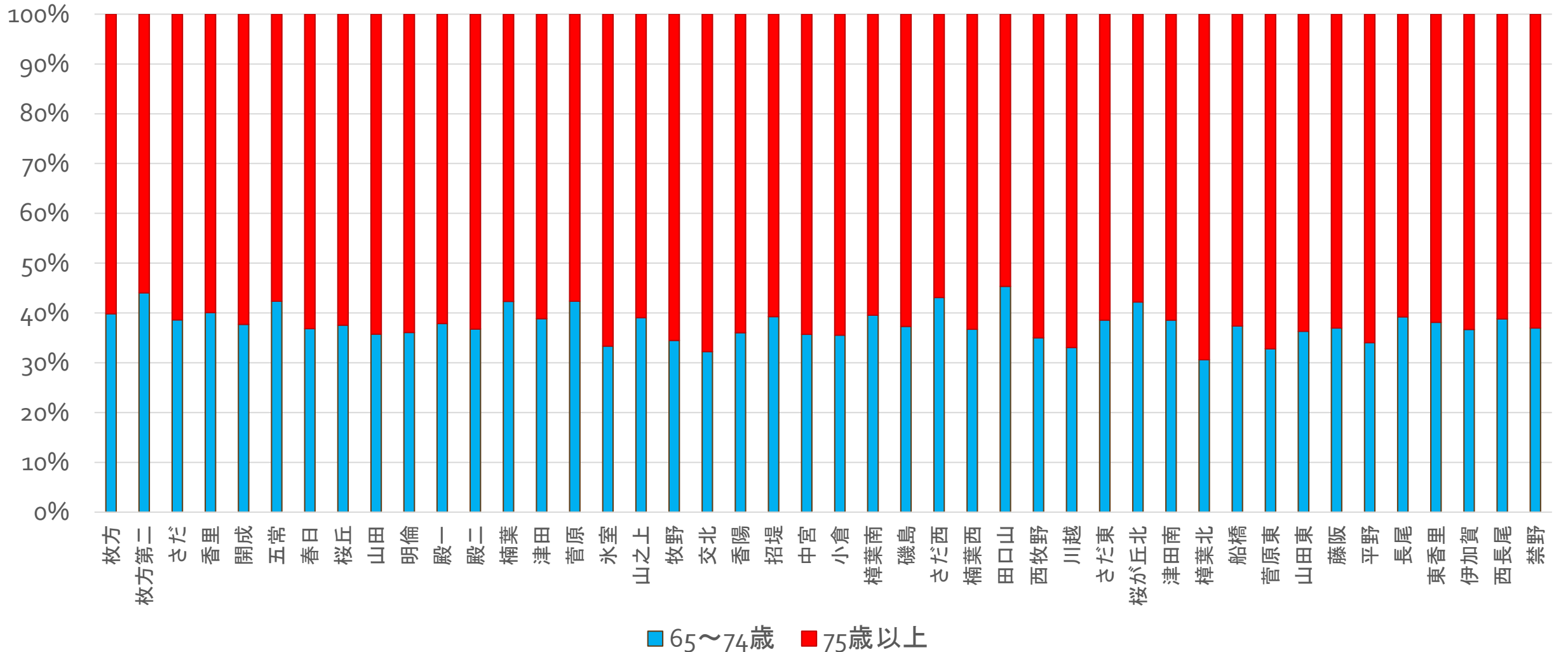
- **7割**の校区で担い手不足が課題にあがっている
担い手、活動への参加者を含め高齢化に伴い、活動できる人の割合が減りつつある
- 担当者の変更や急な休会などにより、事業について理解している人が不足している



活動の担い手不足の課題が顕著に多い

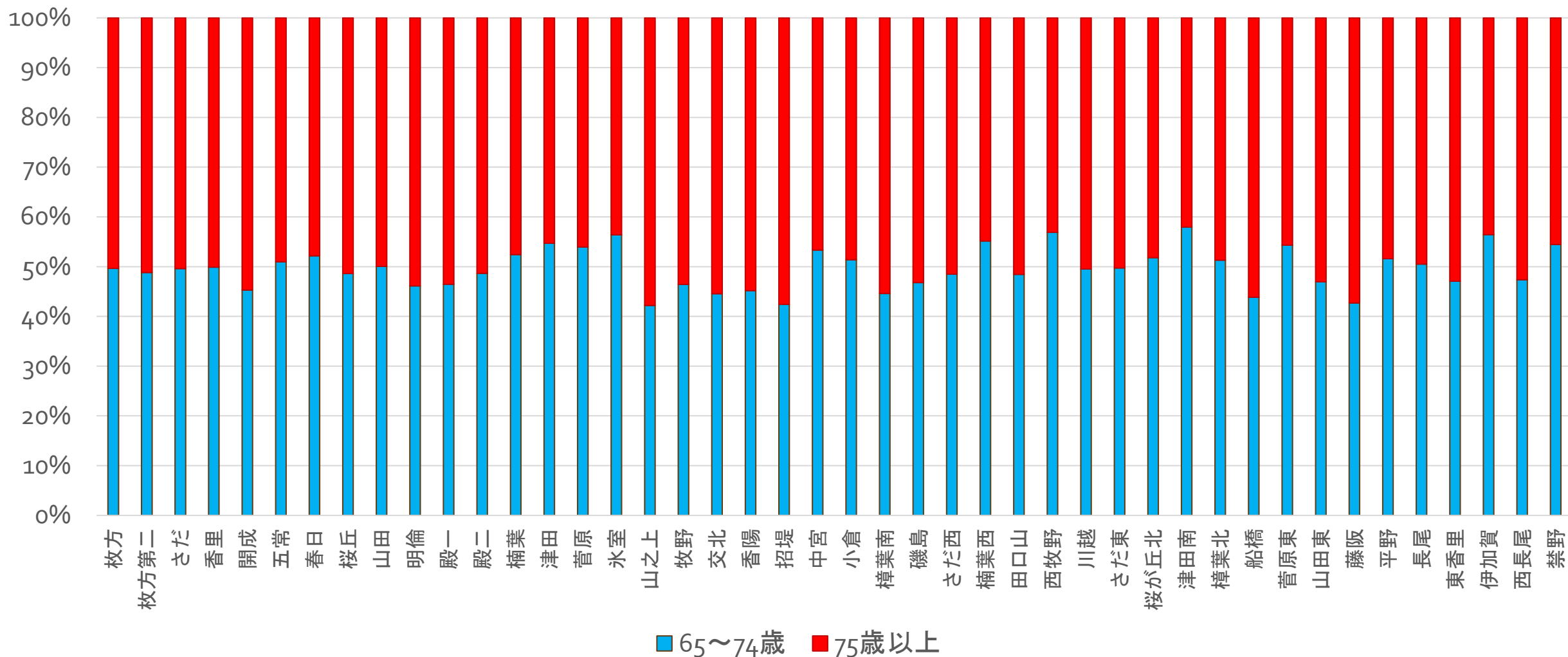
校区ごとに見る枚方市の高齢者割合

前期高齢者と後期高齢者の比較（令和8年5月時点）



この5年間で後期高齢者の割合が増加している！

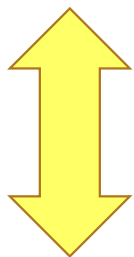
前期高齢者と後期高齢者の人数比較（令和3年3月時点）



取組みの現状

- 活動の活発さにおいて、校区差が大きい。
- 地域住民に当事者意識がない。私事にならない。

他校区の取組みを聞いてもどう取り組んでいいかわからない



ギャップを埋めるために、取組みの推進をしていく必要がある。

必要とされている取組み

- 活動の担い手を増やすための周知啓発などの実施。
- 外出支援や新たな取組みを検討している校区への支援体制の強化。
- 他の校区の情報を聞ける場として交流会の継続。

取り組みの推進むけて必要なシステム

担当者が変わっても継続できるもの

新規の人や引継ぎなどを行っても取り組みを理解している人がいなくなる体制づくりの構築

地域住民を巻き込んだもの

担当者だけが頑張るのではなく、地域住民が取り組みについて知り、参加しやすいような環境づくりや周知方法を検討していく

ギャップを埋めるために
市全体でのシステム作りが必要

課題解決に向けた取組みについて

【交流会の継続開催によるサポート体制の構築】

- ・他校区とつながることで情報共有や広域での取組みを検討できる
- ・情報収集と意見交換ができる
- ・先行事例や他市事例から事業の進め方を学ぶことができる

取組みの
推進

情報共有

【本事業のスキームがわかるツールの作成】

- ・地域住民への周知、事業に対する理解を深める際に使用することができる
- ・引継ぎなどの媒体の一つとなり、コーディネーター自身が学ぶ・知る機会になる

【実績報告様式・報告方法の再検討】

- ・コーディネーター・事務局ともに共有しやすい媒体にすることにより、周知啓発しやすく、課題の共有もしやすくなる

周知・理解
の促進

地域全体を巻き込んで取り組める環境づくり

